



机石抄

二



机

中村俊定文庫

文庫 18

1015

2





松石鈔第二

何行下

松山

山城

山

後醍醐

松山は色づりたるまじし山に雲はたけり

松山は角の風はまゆりて雲はまをわたり

松山

じまはたけしうさうさく山はたけり

杜

後醍醐

松山は色づりたるまじし松の枝はまをわたり

松山

泉河

後醍醐

松山は色づりたるまじし泉河のほとり

松山

母はゆりて色づりたるまじし

後醍醐

松山は色づりたるまじし松の枝はまをわたり

松山

母はゆりて色づりたるまじし

後醍醐

松山は色づりたるまじし松の枝はまをわたり

松山



色一

日 柳をうけし其枝の露をゆりてこけい海流り 若菜系

舟紫 六書 舟をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

呼子 中書 呼子をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

紫柏 初六 泉河柳といふこけいお柳の枝は紫なりぬれ 若菜

日 泉河柳といふこけいお柳の枝は紫なりぬれ 若菜

素 泉河柳といふこけいお柳の枝は紫なりぬれ 若菜

羽来所社 日

後撰三 口をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

今家塾 口をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

口をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

花 末 柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

日 柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

花心 日

花心

藤 末 柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

日 柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

尾上橋 後撰下 柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

柳をうけし人おしよ泉川柳の枝は紫なりぬれ 若菜

駒

後醍醐

皇月此駒のまゝに御座りたるを以て此駒を以て

花のまゝに御座りたるに依りて此駒を以て

此駒の駒のまゝに御座りたるに

後醍醐

皇月此駒のまゝに御座りたるを以て此駒を以て

建仁三年和号所より新河より九十度

此駒を以て御座りたるに

新河

花のまゝに御座りたるを以て此駒を以て

建仁三年和号所より新河より九十度

此駒を以て御座りたるに

新河

花のまゝに御座りたるを以て此駒を以て

初瀬河のまゝ

大和

井杭

五原

初瀬河のまゝに御座りたるを以て此駒を以て

五原

初瀬河のまゝに御座りたるを以て此駒を以て

井杭のまゝに御座りたるに

初瀬河のまゝに御座りたるを以て此駒を以て

久瀬河のまゝに御座りたるに

かの西のまゝに御座りたるに

わがまゝに御座りたるに

井杭のまゝに御座りたるに

梅

五原

人々のまゝに御座りたるに

菅原

後醍醐

菅原のまゝに御座りたるに

久瀬河のまゝに御座りたるに

とく初瀬河と流るとしてなほりたる

初瀬河流りてとくも流んせは流るるも流るる
とく

初瀬心もなほは流るるも流るるも流るる
とく

うかりたる初瀬の心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

流るるも流るるも流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

年と流るるも流るるも流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

初瀬心入りの心流るるも流るるも流るる
とく

大和川

辰

大和川橋より往く家出初瀬の中ノ流石ノ

整田舎

若狭

日

初瀬の若狭より落着くまは初瀬の月夜

と下ノ

御湯

辰

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

佐松

若

辰

若狭の初瀬の湯に下りて又分る湯

意田下

初瀬

未

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

若狭

日

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

高峯

日

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

高峯

日

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

高峯

日

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

高峯

日

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

高峯

日

初瀬の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

尾花

日

山平村の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

春日保

辰

春日保の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

春日保

辰

春日保の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

春日保

辰

春日保の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

春日保

辰

春日保の湯の若狭の湯に下りて又分る湯

意田下

蹴躑

新後拾遺

水鳥たつた乃志は禁りし

以徳院

鶉

拾遺

鶉の志は禁りし

之家

鶉

鳥

鶉の志は禁りし

積有

濱名

遠江

拾遺

沙の志は禁りし

鳥威

鳥威宗常性は小作り

使はし

竹をく

の志は禁りし

拾遺

高野の志は禁りし

高野

後拾遺

高野の志は禁りし

高野

雲舟

日

雲舟の志は禁りし

鳥家

雲舟の志は禁りし

入海

後拾遺

入海の志は禁りし

宗家

駒

新後拾遺

駒の志は禁りし

海國

馬

鳥

馬の志は禁りし

定家

川

日

川の志は禁りし

後成

三浦

日

三浦の志は禁りし

源仲

加海

日

加海の志は禁りし

源仲

垣船

日

垣船の志は禁りし

源仲

高野

日

高野の志は禁りし

源仲

高野

日

高野の志は禁りし

源仲

芳海 駒

素

越してこれ又禁は早の云門の海と云
る中一おれおれなる海と云ふこと
誓れ海なることと云ふこと

とらりなりひさしけ海の海と云ふこと

源光行

いさうの海に記さるる海と云ふこと

岩の指さるることと云ふこと

也中よりとらりく水海と云ふこと

とらり海と云ふことと云ふこと

海と云ふこと

昔

日

凡ゆる昔の海と云ふことと云ふこと

走井

高

多坂

陰詠秋

乞井此程と云ふことと云ふこと

清楠

後送詠

多坂此程と云ふことと云ふこと

地蔵堂

御人

初六

御人此程と云ふことと云ふこと

登田宮

寛平月約

素

乞井此程の事と云ふことと云ふこと

佐頼

菅原

筑前

又のこやまはたあつて筑前國と云ふこと

年へく後成順うそ此國と云ふこと

えれとくことと云ふこと

松

陰詠

それこの人おれ筑前此松と云ふこと

中將左

筑前國筑前此松と云ふこと

ゆりこと

後長根

千早振神侍りて一山崎の松久もきつて一也り 長清

赤井中内云延喜二万味ありて

同根

新長根

かうゆとをた敷のわん二たつる若松 康次母
いんせうのゆりくよまゆり二たつる若松 長

香推

本

若松松をたつりて香推のてはゆり

後根

西川

山城

後長根

鳴滝やぶの河津は長根を思越後と好らつて

後成

山根

高き山根川より一日の香元と

松江

云のてとむあ

行者

同

いんせうの年治より松江のてはゆり

長根

松江

日

いんせうの松江のてはゆり

長根

新長根

新長根

西川や山根のてはゆり

長根

魚

新長根

氷更なるてはゆり

長根

丹生

河

大和

松江

日

若松の丹生は松江のてはゆり

長根

同

日

若松のてはゆり

長根

新長根

新長根

松江のてはゆり

長根

花澤人

新長根

いんせうのてはゆり

長根

若

日

若松のてはゆり

長根

若松

日

若松のてはゆり

長根

御垣

日

若松のてはゆり

長根

吾輩此行文少くは月白晴方なり
多岐法雨作社入草帯候ききて
らるる花は春一りしにやまをばら
るる

吾野 日

け里の舟をたのむとて下りては月白の夜

法鏡湖

象心 日

五月舟をたのむとて下りては月白の夜

法鏡湖

智 日

しるす舟をたのむとて下りては月白の夜

陸振

湖海

高

我神 日

我神の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

幸治 日

幸治の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

頼田 日

頼田の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

鳴舟 日

鳴舟の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

無抄 日

無抄の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

子 日

子の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

秋夜 日

秋夜の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

志賀 日

志賀の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

魚飯 日

魚飯の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

鏡山 日

鏡山の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

我三松 日

我三松の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

栄舟 日

栄舟の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

日暮 日

日暮の海をたのむとて下りては月白の夜

上高

時多

子名

湖大海濱に生ずる竹を今も時多と云ふ

梅江

梅江

芦房

子名

押照也新波海に生ずる竹也

川竹

日

舟に取られし竹也

木積

日三

松江の竹也

蔣竹

子名

美濃州の竹也

此竹は竹の一種なり

新波の竹也

新波

子名

今江の竹也

新波

子名

九月の新波の竹也

雲

後後送云

新波の竹也

楊

利は益也

芦根の竹也

之根

子名

之根の竹也

之根

日

之根の竹也

之根

日

之根の竹也

細谷川

細谷川

之根

子名

之根の竹也

之根

子名

之根の竹也

之根

子名

之根の竹也

之根

子名

之根の竹也

之根

子名

之根の竹也

之根

子名

之根の竹也

常盤山社
里千

町島

貞二

ねいあつちぎれいの町島かゝり松よりわく鳴
はく

御湯

貞一

あしあつちぎれいの御湯かゝり松よりわく鳴
日

菰

後送好

あまのあつちぎれいの菰かゝり松よりわく鳴
日

松

貞二

あまのあつちぎれいの松かゝり松よりわく鳴
日

杜松

貞一

あまのあつちぎれいの杜松かゝり松よりわく鳴
日

白尾滝

後送好

あまのあつちぎれいの白尾滝かゝり松よりわく鳴
日

平時花うき整れ山名しく寄花祝

とまのよめ

松

新送好

あまのあつちぎれいの松かゝり松よりわく鳴
日

松

後送好

あまのあつちぎれいの松かゝり松よりわく鳴
日

花

貞一

春ととも花りさるる花は咲かぬはつちぎれ
日

と

あまのあつちぎれいの花かゝり松よりわく鳴
日

鶯

貞一

あまのあつちぎれいの鶯かゝり松よりわく鳴
日

鶯

貞一

あまのあつちぎれいの鶯かゝり松よりわく鳴
日

鶯

貞一

あまのあつちぎれいの鶯かゝり松よりわく鳴
日

依保

日

依保の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

推

日

推の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

橋

日

橋の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

花

日

花の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

龍

日

龍の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

最

日

最の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

約

日

約の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

蟻

日

蟻の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

蜂

日

蜂の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

深

日

深の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

井

日

井の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

馬

日

馬の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

林

日

林の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

言

日

言の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

山

日

山の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

林

日

林の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

言

日

言の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

山

日

山の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

林

日

林の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

言

日

言の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

山

日

山の清浄な水は人々の健康に大いに役立つ

徳

柳

日

長久保村の境内にありては社にありては柳の葉を

蘇野

日

長久保村の境内にありては社にありては蘇野の葉を

鳥羽 中山

大江山

新田

大江山の境内にありては社にありては大江山の葉を

杉

後

杉の境内にありては社にありては杉の葉を

松

後

松の境内にありては社にありては松の葉を

早苗

後

早苗の境内にありては社にありては早苗の葉を

四角

後

四角の境内にありては社にありては四角の葉を

高瀬

日

高瀬の境内にありては社にありては高瀬の葉を

梅

日

梅の境内にありては社にありては梅の葉を

店

新田

店の境内にありては社にありては店の葉を

八景院の境内にありては社にありては八景院の葉を

麻

日

麻の境内にありては社にありては麻の葉を

池

後

池の境内にありては社にありては池の葉を

野

日

野の境内にありては社にありては野の葉を

結

日

結の境内にありては社にありては結の葉を

畑

日

畑の境内にありては社にありては畑の葉を

花

五本 吹たつとて花の心月と能保代徳や花のし政 秋有

等

日 集ふつと能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 有主

香

日 能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 後保代

香

日 能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 源仲心

岸

日 能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 有主保

鳥部 日

谷

能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 後保代

入るる能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政

戸切りぬらふ能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政

うらりりるる

鳥林

能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 後保代

若

能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 後保代

入るる能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政

戸切りぬらふ能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政

うらりりるる

能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政

戸切りぬらふ能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政

うらりりるる

野

能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 後保代

鈴

能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 有主

塚

能保代徳や花の心月と能保代徳や花のし政 有主

花火

大和

一六

丁巳日

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

羽生

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

船子

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

菅

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

町

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

菅橋

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

菅橋

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

仲心

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

麻橋

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

萩

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

辰巳

夕三

十市

里野 村山池

同

天音山

新上

十市赤夕三とて春の暮之山とてなり

信解

里橋

新上

文のり文のり文のり十市此里よりなる

或西

信解

かたは十市此里よりなる

宗徳院

橋

同

十市より吹上風の白く花橋乃とてなり

聖徳院

稲妻

同

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

春日院

野

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

春日院

橋村

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

春日院

尾

辰巳上

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

春日院

山四角

同

春日の元大花火おぼろけとよき日とてなる

春日院

池之榎草

新撰

とくも十市此池のつらきとて榎草の人多し

為家

妹

古書

妹は十市此池のつらきとて榎草の人多し

香花

牧野大

古書

白雲の十市此池のつらきとて榎草の人多し

竹町

的 石原

古書

白雲の十市此池のつらきとて榎草の人多し

源仲云

梅

古書

一月廿十市此池のつらきとて榎草の人多し

以爲院

象山

古書

今地風とて榎草のつらきとて榎草の人多し

那智

小笠

古書

行書は十市此池のつらきとて榎草の人多し

花定

大和川

古書

色は十市此池のつらきとて榎草の人多し

清浦

豊等

古書

色は十市此池のつらきとて榎草の人多し

同

葛城

古書

葛城の十市此池のつらきとて榎草の人多し

源貞氏

花入

古書

色は十市此池のつらきとて榎草の人多し

大庭

初瀬松原

古書

初瀬の松原のつらきとて榎草の人多し

石川

松

古書

松のつらきとて榎草の人多し

石川

蓮

古書

蓮のつらきとて榎草の人多し

石川

市

古書

市のつらきとて榎草の人多し

石川

苔

古書

苔のつらきとて榎草の人多し

石川

雲

古書

雲のつらきとて榎草の人多し

石川

遠里小野

古書

遠里小野のつらきとて榎草の人多し

石川

任

古書

任のつらきとて榎草の人多し

石川

津

古書

津のつらきとて榎草の人多し

石川

萩

古書

萩のつらきとて榎草の人多し

石川

松

古書

松のつらきとて榎草の人多し

石川

松

古書

松のつらきとて榎草の人多し

石川

松花

新羅下

足湯八松花は後ろにありそを里小舟の花の白雲

松花

町多

後藤下

任直が門の久安河をを里小舟り一程のれ

町

麻狩

新羅下

麻狩をを里小舟は後ろに神小舟りて帰る人

後藤

為

新羅下

任直を里小舟の麻舟のにや川根麻の心

後藤

虫

新羅下

平れゆを里小舟は後ろに風をうらうらとせ

後藤

子日松

新羅下

好も松中平は後ろにそを里との松虫の心

後藤

梅

新羅下

任直は日せうん今をを里小舟の梅の心

後藤

蕨

新羅下

初も蕨を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

薑

新羅下

うらうらを里小舟の薑舟の心

後藤

忘子

新羅下

任直の名小舟の忘子を里小舟の心

後藤

鶉

新羅下

鶉鳴を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

鳥

新羅下

鳥鳴を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

大石

新羅下

大石を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

花

新羅下

花を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

鶉

新羅下

鶉鳴を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

松

新羅下

松を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

河

新羅下

河を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

菅

新羅下

菅を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

伏松

新羅下

伏松を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

町多

新羅下

町多を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

梅

新羅下

梅を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

鶉

新羅下

鶉鳴を里小舟は後ろにそを里との心

後藤

掛丸

日

風いづれも人あはれきまらぬ

掛丸

十景 浦

陸奥

水鳥

全集

水鳥はけらけりし浦に十景は後二日

浦

浦月

初巻

久しとく浦風をよほすはけりし

掛丸

策殿

お前

お前も敷たけりし浦に十景は後二日

公定

陸

お前

文おきりし浦にけりし浦に十景は後二日

お前

伏屋

お前

お前も敷たけりし浦に十景は後二日

大橋

野田

日

お前も敷たけりし浦に十景は後二日

野田

三原園

日

お前も敷たけりし浦に十景は後二日

鴨島

